

平成 25 年度 記者懇談会（第 5 回）の記録

- 日 時 平成 25 年 8 月 30 日（金）午後 3 時 00 分
場 所 水道庁舎 4 階 会議室
記者数 10 人
同席者 阿部副市長、上谷副市長、総務部長、企画財政部長
次 第 1 年末年始の休日変更について
2 平成 25 年度 市政功労表彰について
3 開基 130 年・市制施行 70 周年記念式典について
4 岩見沢市安全安心・防災合同パレードについて
5 その他について

1 年末年始の休日変更について

説明内容

（市長）

最初は「年末年始の休日の変更について」でございます。

市の年末年始の休日は現在、12 月 31 日から 1 月 5 日までとしておりますが、国や北海道の機関の休日が 12 月 29 日から 1 月 3 日まで、と異なっているため、市民生活や行政サービスに不便や混乱をもたらすことがあり、また、市と国や北海道の機関との連絡や連携に支障が生じることもございました。

そこでこの度、年末年始の休日を国や北海道の機関と同様の休日に変更することとし、岩見沢市議会第 3 回定例会に議案提案することといたしました。

また、市の年末年始の休日の変更に伴い、98 施設の休館日も同様に変更することといたしました。議決後、市民サービスに支障を来さないよう、周知に努めてまいります。

なお、札幌市をはじめ、近郊の市も別紙のとおり、国や北海道の機関と同様の休日にしております。

質疑応答

（北海道新聞）

この休日を変更するのは初めてでしょうか。何年かぶりに戻したとか、そういうことではないのでしょうか。

（市長）

条例の設定当時から、12 月 31 日から 1 月 5 日までと言うことで、世間とは 2 日ずつずれています。私も昭和 56 年採用ですけれども、その時にはもうすでにそういう形がありました。その時に、なぜ世間とずれているのだろう、と調査したこともあったのですが、よく言われたのが、年末年始、年を越すのに資金を借りる、銀行の融資を受ける必要があるという際に、いろいろな諸証明について、即座に発行ができない、困

る方がいらっしゃる、とすることで、休日をずらしている、と言うようなことを先輩から聞いた記憶はありますけれども、現状の金融機関の勤務体制ですとか、融資の状況とか、実際にお聞きしますと、年末年始ギリギリに融資を実行するかと言うと、そういうことは全くない。むしろ、そう言ったことがあれば、それまでの期間で充分年内に完結してしまうし、年を明けて急ぐ場合でも、1月4日に融資を実行することで、何ら支障がないというようなことをございます。

(北海道新聞)

変更について、市民の方から新年4日から市役所を開けてほしい、というような要望があった訳ではないのでしょうか。

(市長)

実際、31日から5日まで休んでいて、世の中は1月4日から仕事始めということで、もう動き出してしまふ。それで市の場合、どういう対応をしているのかと言いますと、数年前からだと思いますが、4日・5日については、午前中窓口を開けています。ただそれが午前中でしたので、午後、世間では仕事が始まっている訳でございますが、4日午後に戸籍や住民票を取りに来られても市役所の窓口が閉まっている、と言うのが実態でございました。まあ、そんなに件数が多いわけではないんでしょうけども。市民サービスの、利便性の向上と言うことにつながっていくと思っております。

また、土・日にかかった場合でも、私ども、駅前の市民サービスセンターを持っておりまして、そこは土・日も開けております。まあ、カレンダーの関係で、7年に1回はどうしても年末年始の休みが長くなります。

(北海道新聞)

今年は9連休になりますよね。

(市長)

カレンダーの関係でそうなりますが、別にそれを狙って実施したという訳ではございません。現状の体制でも、新しく変えようとしている体制にしても、7年に1度はどうしても起きてしまいます。その際、土・日を挟むことで休みが伸びてしまふ、ということでございます。その間は、サービスセンターが開いているということで、戸籍・住民票、印鑑証明も確か対応できるはずで。

(毎日新聞)

昔ねえ、昭和55年ぐらいに岩見沢が伸びて長くなる時期があったんですよ。そして朝日新聞が「それはおかしい」と書いたことがあるんだよ。

(市長)

どうしてもカレンダーの関係で7年1回は休みが長くなってしまいますから。

(北海道新聞)

確認になりますが、市内で98施設がこの影響を受けるということでよろしいのでしょうか。

(市長)

確か今年の3日、4日が大雪だったと思うんですが、その際でも大雪対策で関係職員は出勤していますが、市役所全体の仕事始めが4日になれば対応もできますし、じゃそれが年末だったらと言う議論もあります。

(読売新聞)

なぜ今年、と言うかこのタイミングで変えたのでしょうか。

(市長)

タイミングにつきましては、私市の職員だったのですが、かねがね、国や道と年末年始を合わせるべきだという考えを持っておりました。ただ、そのことについては、十分な周知期間を含めて、実施が必要だということですので、今年から、各施設等の関係も含めて状況を調査したうえで、実施をするということでございます。

2 平成 25 年度 市政功労表彰について

3 開基 130 年・市制施行 70 周年記念式典について

説明内容

(市長)

次の項目に移らせていただきます。岩見沢市表彰条例に基づき、市勢の振興発展に特に功績のあった方々に対しまして、平成 25 年度の岩見沢市政功労表彰の受章者（市政功労者）が決まりましたので発表いたします。

お手元に配布いたしました資料のとおり、8 名の方々に決定いたしました。

- こぎ あきのぶ
・ 小木 昭信 さん 86 歳 自治功労
- かつい きよし
・ 勝井 清 さん 76 歳 自治功労
- さとう ようこ
・ 佐藤 陽子 さん 65 歳 自治功労
- かわい ただし
・ 川合 忠 さん 72 歳 自治功労
- まえかわ ひでお
・ 前川 英雄 さん 75 歳 自治人権功労
- みやもと しんいち
・ 宮本 慎一 さん 66 歳 保健衛生功労
- さが よしてる
・ 嵯峨 義輝 さん 65 歳 教育功労
- おおくぼ つねお
・ 大久保 恒夫 さん 69 歳 消防功労

以上の8名の方々に対しましては、例年ですと、市政功労表彰式というのを実施しておりますが、今年は10月2日（水）に、まなみーるで開催いたします、開基130年・市制施行70周年の記念式典におきまして、功績を称え、表彰状と功労章を贈呈いたします。

続きまして、開基 130 年・市政施行 70 周年記念式典について、でございます。

本年、岩見沢市は開基 130 年・市政施行 70 周年を迎えることから、10 月 2 日（水）まなみーるにて記念式典を開催いたします。

内容は、お手元の資料にございますように、午前 9 時 30 分からウエルカムイベントとしてミニ百餅餅つき、教育大学の声楽グループによる演奏、午前 10 時から大ホールにて式典を開催し、岩見沢市の発展に功績のあった方々の表彰を行うほか、小・中学生の参加を得て交響詩岩見沢の合唱などを予定しております。

表彰は、先に説明させていただきました市政功労表彰に続き、岩見沢市開基 130 年・市制施行 70 周年を記念し、一般功労表彰として、地方自治や社会福祉、保健衛生や産業経済、教育文化といった分野におきまして、その振興に貢献された方々に感謝状を贈呈いたします。

受賞者は、資料にございますように、地方自治の分野で 11 名・3 団体、社会福祉の分野で 39 名・3 団体、保健衛生の分野で 5 名、産業経済の分野で 4 名、教育文化の分野で 4 名・1 団体、消防防災の分野で 3 名・1 団体、また、特別表彰として 1 団体の、合計 66 名・9 団体の表彰となります。式典では、各分野の代表者の方々に感謝状を贈呈することとしております。

座席数に限りはございますが（約 300 名）、市民の皆さんも式典をご覧いただけますので、ぜひ、足を運んでいただきたいと思います。

また、今後予定されている記念事業といたしまして、「子ども大絵画展」「子ども市議会」などを予定しております。

「子ども大絵画展」は、市内に通園・通学している幼稚園児、小・中学生と高校生に、岩見沢をテーマにした絵を描いてもらい展示するものですが、小・中学生はすべての児童と生徒が参加する予定ですので、6,000 枚以上の作品の展示を見込んでおります。

展示は、10 月 2 日（水）から 12 月 6 日（金）を予定し、期間中に絵の入れ替えを行いながら、すべての作品を展示することとしております。

「子ども市議会」は、市内小学校の代表者が議員役となり、岩見沢のまちづくりについて、私（市長）や教育長へ質問するという内容ですが、10 月 5 日（土）午前 10 時から議場を会場として実施いたします。

質疑応答

（北海道新聞）

子ども市議会というのは、これまでも開催されたことがあるのでしょうか。

（市長）

当市では女性市議会というのを開催したことがございますが、子ども市議会は初めてとなります。

(北海道新聞)

各小学校の代表者が出席するというのですが、合計で何名の出席になるのですか。

(市長)

最大で 45 名程度になるかと思います。

(企画財政部長)

平成 15 年に婦人の議会を開催してございますが、子ども議会は初めてとなります。

(市長)

一般功労表彰においては、駒澤大学附属岩見沢校の野球部を特別表彰することになっています。受章者のリストの最後に載っているかと思います。

(北海道新聞)

特別表彰はこれまでも、枠に入らない方などを表彰してきたことがあるのでしょうか。これは教育分野に入るものではないのでしょうか。

(市長)

駒澤高校の野球部につきましては、昭和 58 年の開基 100 年の時に、一般功労表彰を受章されていますけれども、今回、今年限りで高校が閉校ということにもなりますし、これまでずっと、一生懸命頑張ってくれたことに対しまして、特別表彰として感謝の意を表すことといたしました。

4 岩見沢市安全安心・防災合同パレードについて

説明内容

続きまして、「岩見沢市安全安心・防災合同パレードの開催について」でございます。

10 月 5 日（土）に、岩見沢市開基 130 年・市制施行 70 周年記念「岩見沢市安全安心・防災合同パレード」を開催いたします。

これは、市民の安全と安心の確保、また防災を担う関係団体が連携して、各団体の取り組みを広く市民の皆様にも周知したいという思いから、実行委員会を組織して、合同で行う記念行事として企画いたしました。

概要といたしましては、午後 1 時 30 分から市の中心部 4 条通りを、各機関が所管する車両や、交通安全・防犯等の関連団体の行進、音楽隊の行進などを行います。

並行して、駅東市民広場公園において、各機関が所管する車両の展示を行うとともに、イベントホール赤れんがにおいて、パネル展示やあるいは P R ビデオ上映ほかに、お子さんも楽しめる企画を考えております。このような、各関連団体が集まり行う防災関連行事は、岩見沢市としては、初めてのことと思いますので、限られた時間ではございますけれども、多くの市民の皆様にお集まりいただき、市民の安全安心・防災の取り組みをご理解いただきたいと思います。とっております。

なお、実行委員会の構成団体等につきましては、資料に記載の通りとなっておりますが、市中パレード行進につきましては、警察署の所管車両、交通安全防犯協力団体、自衛隊音楽隊、消防署所管の車両、そして市が所管している除排雪関係の車両、そして自衛隊の車両というようなことで構成しているところでございます。

質疑応答

(NHK)

このパレード、今年初めて実施するということですが、目的は広く市民に周知をする、もっと良く知ってもらおうということになるのでしょうか。

(市長)

安全安心の確保、防災の重要性ということを広く訴えるということと、各機関が連携して実施している現状も知ってもらうこと、能力・機動性を知ってもらうこと、そして、先ほど岩見沢市は開基 130 年・市制施行 70 周年と申し上げましたが、今回参加していただく団体の中で、特に自衛隊は創隊 60 周年という、それぞれが節目の年を迎えるということもございまして、防災、安全安心の確保といった共通項で、広く関係団体が記念行事、イベントを企画しよう、と臨んだ次第でございます。

(NHK)

この団体の参加を見て一番連想するのが、大雪の時に自衛隊だとか関連団体が協力してやるのだなあというのが連想されるのですが、こういう取り組みを通じて、有事の際の連携がうまく行くようにというようところが目指すところなののでしょうか。

(市長)

今回、防災ということなので、水害もそうですし、有事に対応できる機動力を理解していただく、防災意識の高揚にもつなげていく、ということで、岩見沢市でいきますと、ロータリー車などの除排雪関連車両、警察でいきますとパトロールカーはもちろんですが指揮車なども、消防事務組合については、はしご車、化学車などの消防関係車両、自衛隊については、国際貢献もかなりやっている部隊なので、人命救助に関係する車両や特殊車両なども含めてパレードに参加し、また展示の方では炊事車で豚汁の提供が 200 食程度予定するというようなことで、現在、協議を進めているところでございます。

特殊車両では自走架柱橋車という、川に橋を架ける車両もパレードに参加いたします。施設部隊ですので、安全安心をキーワードにしております。

(NHK)

自衛隊が、こういう装備を市民の方にしっかり見てもらいたい、というような要請が普段からあったのでしょうか。

(市長)

岩見沢市と自衛隊は節目の年を迎えるということもございまして、私どもだけではなく、関係機関が災害の時には連携しなければならないことから、広く呼び掛けて参加をいただいたというところでございます。

(プレス空知)

岩見沢市内の中で、安全安心という部分を、もうちょっと地道に周知していこう、と考えたときに、今年、お互い節目の年を迎えたというのを契機に、合同パレードを行うということ考えたならば、来年度以降も定期的にある程度 5 年なり何年かごとに開催していこう、ということになるのか、それともあくまで節目を迎えたということで、今年は単発的なものとしてやるのか、どちらなののでしょうか。

(市長)

現在のところ単発です。

(プレス空知)

あくまでも周年記念ということで。

(市長)

現在は周年行事ということで考えています。ただ、今後このような取り組みをやっていくことを含め、課題になるかと思いますが、現在は単発の周年記念行事として実施いたします。

(読売新聞)

素朴な疑問なのですが、観光協会が入っていますよね。これは安全安心というくりとはちょっと毛並みが違うのかなあ、と思うのですが。どんな形で参加するのかお聞かせいただけますか。

(市長)

記念行事の運営上ということもありますし、子どもを含めて広く来場いただきたいという観点もあり、いくつか、子どもたちが喜ぶような企画も考えていて、多少の飲食等考えておりますので、今回協力をいただいた次第です。

(NHK)

このパレードに関わってなのですが、こういう形で関係機関が合同パレードを実施すると言うのは初めてだということなのですが、個別ではこれまでも、例えば消防車両のパレードだとかはあることなのでしょう。

(市長)

消防の関係ですと、子どもさんも楽しめる消防フェスティバルですとか、もちろん総合演習も実施しています。また、それぞれの機関で独自に実施していることもあるでしょう。

(NHK)

自衛隊もこういう形で街中を自衛隊車両がパレードするというのは、岩見沢でこれまでもあったのでしょうか。

(市長)

ないと思います。創隊のときには、岩見沢の駅から現在の駐屯地までパレードをして駐屯をした、というようなことはお聞きしたことがございますが、その後、こういう車両などのパレードをしたことはないのではないかとお聞きしております。

まあ私どもは安全安心なので、本当に防災・安全安心に関係する車両だけのパレードということでございます。

(プレス空知)

参考までになのですが、自衛隊所管車両ほかと書かれていますが、所管車両というのは、岩見沢駐屯地の所管車両ということでいいんですよね。と言いますのも、滝川市で周年記念行事があったときに、滝川駐屯地所管車両ということで、戦車や装甲車が駅前を走って、関係団体からの批判があったということもありました。そのあたりの心配といいますか、懸念はないのでしょうか。

(市長)

私どもが行うのはあくまで防災なので、小型車両、大型車両、防災に関連する車両ですが、炊事車ですとか道路障がい作業レッカー車、バケット、先ほども言いました自走架柱橋車、浮橋、掘削など、防災関係車両のパレードと展示になりますので、滝川市のようなパレードにはなりません。

5 その他について（記者からの質問）

質疑応答

(北海道新聞)

今月下旬の雨で農作物の被害状況と収穫の見通しなどについてどのように把握しておられるのか、お聞かせいただきたいのと、行政改革大綱の策定自体は進んでいるかと思うのですが、合併の検証作業の進捗状況がどうなっているのかをお聞きしたいのですが。

(市長)

まず、農作物の方です。水稲についてですが、確かに春作業は遅れたのですが、その後の高温で出来も良く、おそらく来週あたりから刈取りが始まってくるかと思えます。雨の影響については、一部出てくるところもある可と思えますが、長く水に浸からなければ、水稲自体はそんなに影響を受けないので、大変私どもとしても期待をしている所です。

それから玉ねぎにつきましては、春先の遅れが一番響いたのが実は玉ねぎではないかと思っております。移植が随分遅れましたので、例年ですと5月の連休明け、遅くても10日前後までには移植がすべて終了しているところがございますが、今年は聞くところによりますと、5月29日によろやく玉ねぎの移植を終えた農家がある、ということがございます。大変作業自体が遅れたということと、その後、高温少雨の状態が続きましたので、大きさとしては小玉傾向が出ていること、また、収穫時期であるここ数日間、雨が続き、場所によってはなのですが、畑がぬかるんだ状態では作業ができないということで、収穫作業が伸びているというところもあるかと思えます。場所によりますので、この程度はまったく心配ないところでございます。被害、ということになりますと、今のところ大きな被害の報告は受けておりません。

行政改革大綱につきましては、市政改革懇話会を3回ほど行っておりますけれども、合併の検証も引き続き並行して内部での検証を続けている状況でございます。併せて、これは大変な作業量にもなるものですから、まだ今後も継続して行っていくことになると思います。

(北海道新聞)

検証内容というのはどのようなものになるのでしょうか。

(市長)

議会でも申し上げましたが、市民サービスに直結するようなものを中心と言うようなことで、私どもの企画室を中心に作業を進めております。

また、サマーレビューの中でいくつか、合併の検証についても取り上げるような項目もありましたので、検証を進めているところでございます。

(北海道新聞)

各地区でサービスが異なっているものもあるかと思うのですが、そういったものの洗い出しとかは行っているんですよね。それだけでも視点としてはいろいろあるんですよね。

(市長)

合併した後にサービスのアンバランスとか、合併したことによって実は公共施設をかなり多く抱えておりますので、これは行革大綱とも関連してくるところなのですが、見直していく際に、どのような管理形態が良いのか、施設を集約する可能性、そういった必要性があるのかないのか、そういったことも含めたトータルな話になると思っています。

(北海道新聞)

これは教育委員会に聞くべきことなのかもしれませんが、学校給食の新しい調理施設の計画づくりについて、プロポーザルで募集しているかと思うのですが、そのことについてお聞きしてもよろしいですか。

(市長)

大変申し訳ございませんが詳細を聞いておりません。

(NHK)

明日の訓練です。前回のこの場でもご説明いただいたのですが、改めて、どういう形で、どういうところを確認して訓練していきたいのか、というところをお聞かせいただきたい。

(市長)

今回のテーマである雨もそうなのですが、初動体制を素早く、ということを中心を心掛けたいと考えているのと、情報の収集とか伝達、避難所の設営、情報提供のあり方、広報のあり方等も含めて、かなり課題を抜き出していますので、それぞれの本部の担当、調査、設営、様々な観点から課題の抜き出しをやったうえで実施したいと考えています。

まずは全体がどのように流れていくのか、設置自体もスムーズに設置が出来るのか、色々な面を多角的に検証したいと考えています。

昨年は災害対策本部をあの場所に設置しましたが、あの時の課題として、防災対策室が2階にあって、1階に対策本部をつくりました。それが階が異なると2元的といいますか、連携がうまく行かなかったということの反省を基に、今回は防災対策室もすべて下におろして、同じあの場所で連携を図る、と言うところからスタートしたいと思っています。

(NHK)

今回の訓練で言うと、職員の皆さんのそういう時の確認と言うのが大きな目的となりますか。地域との連携というのはまた別の機会にということになるのでしょうか。

(市長)

今回はすべての地域ではないのですが、避難所を東小学校と美園小学校に設営することにしていますので、その会場では、地元町内会の皆さんの参加も得て、ということも考えています。

(北海道新聞)

競馬場跡地なんですけど、担当部の方で東17丁目通りの整備方針が示されていますが、その他の利活用の話と言うのは、昨年度構想をまとめていて、その後まったく今年度の動きが、どのような検討の進み具合になっているのか、見えていないのですが。今年度はどのような、昨年度の構想を含めて計画策定に入っているのでしょうか。

(市長)

基本的にはマスタープラン、基本計画なので、それぞれ個々のメニューを実施するに当たっては、他のところの整合性を図らなきゃならないのがもちろんなものですから今年度は、スタンド解体工事に向けて、今回調査を行っています。

(北海道新聞)

スタンドの解体工事には入るんですか。

(市長)

解体に向けての調査、どれぐらい費用がかかるのか、どういうものが含まれているのか。あそこをまず解体しないと、なかなかその先に進めないと言うところでありまして。かなりの面積がありますことから、すべてのことをいっぺんに出来ませんので、短期・中期・長期ということで進めてまいります。調査の結果を踏まえながら、事業を選択していかなければならないのかな、と思っています。

(北海道新聞)

スタンドの解体は今年度調査して、今年度実施ということではないのでしょうか。

(市長)

今年度の実施ではありません。次年度以降の実施になります。

(北海道新聞)

現在調査中ということですが、費用の規模はどれぐらいになるのでしょうか。

(市長)

かなり高額になると思います。実はあそこにはアスベストを含有する施設がありまして、場所は特定できているのですが、解体するとなるとかなりの費用がかかることになっていきますので、そういったことを含めていま調査を進めているところでございます。ですからそう簡単に解体、ということは、なかなか難しいと考えています。

(上谷副市長)

全体事業としてはかなり大きくなりますので、土地利用の基本構想はあるのですが、具体的な利用に向けては補助制度ですとか、諸々ありますので、きっちりと考えいかなければならないと考えており、先日の委員会でも説明させていただいたところです。

(北海道新聞)

今後、合併特例債の算定換えが始まり、財政規模も縮小していくことから、大型事業で想定できているものって、例えば、昨日の特別委員会でもありました、桂沢の浄水場の更新事業ですとか。あれで総額で120億とも130億ともと言われているようですし、まあ、3市での分担にはなるのですが、そういった数十億にのぼる大型事業で、これからやらなきゃダメなものって、どういうものが考えられるのでしょうか。まあ、この庁舎の建て替えもそうだと思いますが。

(市長)

いま、合併の特例加算措置がなくなることを前提として、行革大綱と併せて、中長期の財政計画を作っています。その中で幾つかの大型事業についてはある程度盛り込んでいて、その内容については、消防署の建て替えですとか、学校の改築・改修ですとか、他には調理所ももちろん入っていますし、文向台の衛生センターも入っていますが、今回は庁舎の建て替えについては盛り込んでおりません。ただ、そういったことも課題になるということは認識しております。

やはり、学校の耐震性の確保と言うことは優先されるのではないかという認識があります。

(企画財政部長)

桂沢の 130 億という数字については、今のところ飲み込んではいないということになっています。

(北海道新聞)

病院とかはまだ建物が大丈夫なのでしょうか。

(市長)

病院は築後 29 年ですが、昭和 59 年の建物なので耐震性も確保されていますし、29 年経過していますが、施設的にはまだ大丈夫です。

仮に市立病院規模の病院を建て替えるとなると、医療機器を含めて、直近の近隣の事例などを参考にしますと、1 ベッドあたり 3,500 万円ぐらいになります。ですから 400 ベッドとなりますと、130 億円ぐらいと言う、とてつもない費用がかかるということになります。

まだまだ建物は使えますし、中の機能を高めるというような取り組みを進めていきたいということを私自身は考えています。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)